

## 原発性胆汁性胆管炎とは？

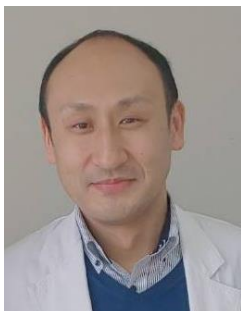
原発性胆汁性胆管炎は慢性進行性の胆汁うっ滞性肝疾患です。肝臓の中のとても細い胆管が免疫学的なメカニズムにより破壊され、胆汁の流れが通常よりも滞ってしまい、血液検査をするとALPやγGTPなどの胆道系酵素が高い数値になります。さらに、血液の中に抗ミトコンドリア抗体（AMA）という自己抗体が検出されるのが原発性胆汁性胆管炎の特徴です。この病気は英語ではPrimary Biliary Cholangitisといい、頭文字をとってPBCと呼ばれます。多くの患者さんでは進行は極めてゆっくりですが、肝硬変に進行することもあります。

PBCの治療としては、ウルソデオキシコール酸という薬が使われています。また、強いかゆみを生じることがあり、最近は肝臓病で起こるかゆみに対する新しい薬（ナルフラフィン塩酸塩）が開発されており、PBCに対しても一定の効果が認められています。ビタミンDの吸収障害による骨粗鬆症に対しては、ビスホスホネート製剤やデノスマブなど多くの薬が開発されています。

自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎は、厚生労働省が定める難病に指定されています（難病情報センター <https://www.nanbyou.or.jp>）。また、厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班（<http://www.hepatobiliary.jp>）において、さまざまな研究が行われています。患者さん・ご家族のためのガイドブックも作成されており、病気の解説や日常生活での留意点などが分かりやすく記載されています。ぜひご活用ください。

### 《著者紹介》

荒瀬 吉孝（あらせ よしたか）



東海大学医学部消化器内科 講師

1980年生 群馬県出身

2006年 東海大学医学部卒

日本内科学会 総合内科専門医、指導医、

日本消化器病学会 専門医、指導医

日本肝臓学会 専門医、指導医、東部会評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医、指導医

日本門脈圧亢進症学会 評議員、技術認定医（内視鏡的治療領域）

厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 研究協力者

